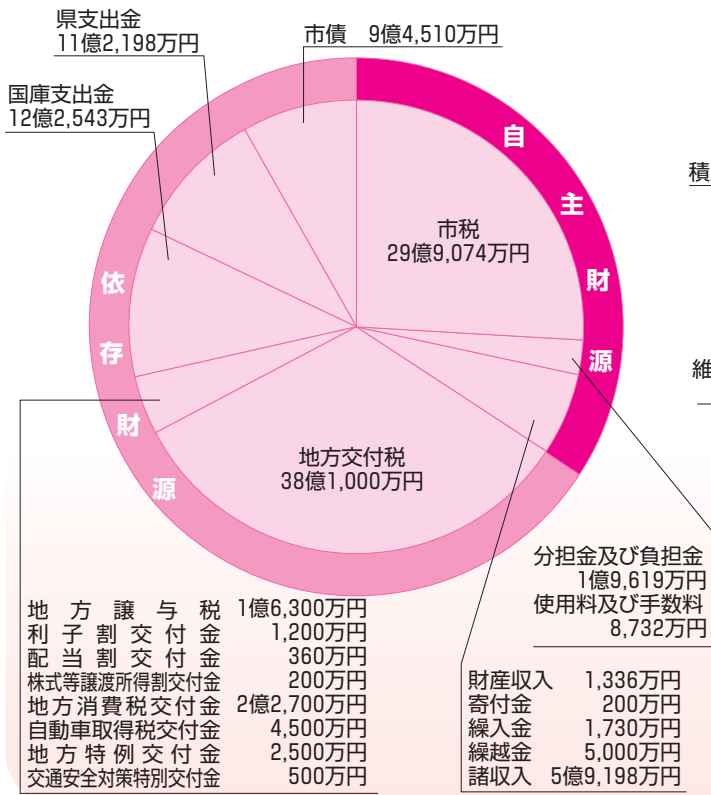
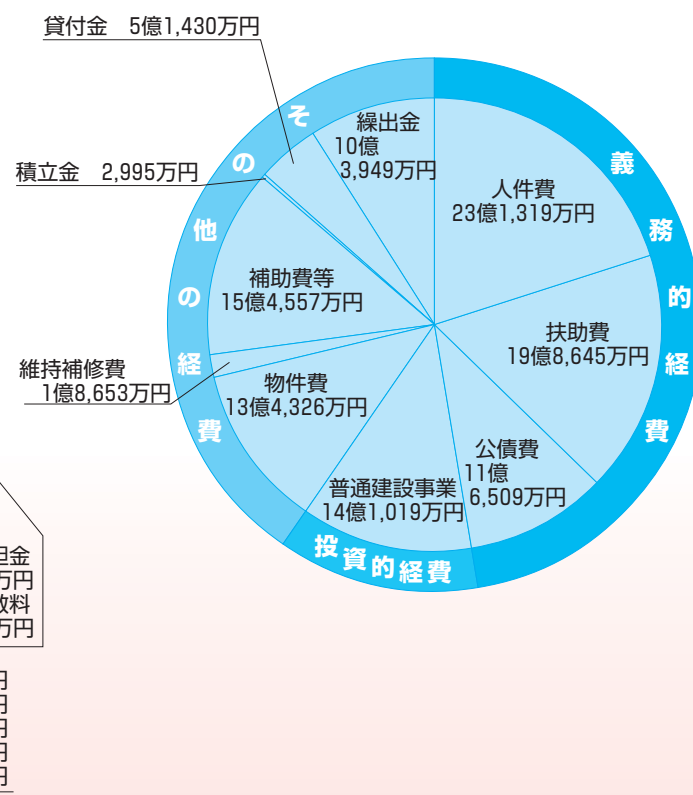


一般会計

歳入



歳出



特別会計名	予算額	前年度比
育英資金会計	3,451万円	-2.7%
下水道事業会計	12億2,453万円	-0.6%
農業集落排水事業会計	4億1,417万円	+28.0%
簡易水道事業会計	3億2,686万円	+92.7%
国民健康保険会計	25億2,287万円	-2.4%
老人保健会計	165万円	-90.0%
後期高齢者医療会計	3億2,262万円	+1.0%
介護保険会計保険事業勘定	25億1,068万円	-0.3%
介護保険会計介護サービス事業勘定	1,181万円	+5.6%
市有林造成事業会計	7,693万円	-10.1%

予算総額 **195億7,286万円**  
 一般会計 **115億3,400万円**  
 特別会計 **74億4,662万円**  
 企業会計 **5億9,225万円**

限られた予算を重点配分

歳出は、性質別内訳を見ると、義務的経費のうち、児童・障がい者・高齢者・生活保護関係などの扶助費が、約19億8,600万円の前年度比17.7%の増となっていますが、子ども手当支給がスタートすることが主な要因となっています。

投資的経費は、公共施設や道路の建設などで、史跡白山平泉寺旧境内総合整備事業、野向児童館の建設、荒土公民館耐震補強工事、市民要望の強い道路改良などがあり、全体の普通建設事業費は前年度比9.5%増の約14億1,000万円となりました。

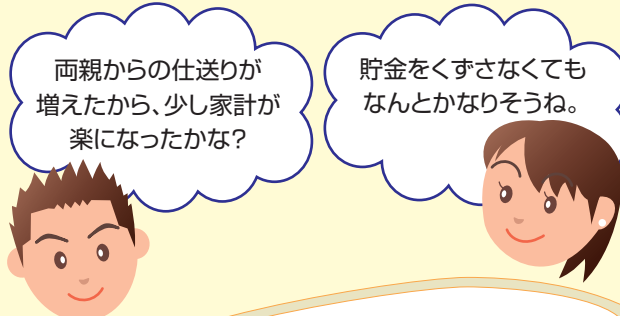
昭和43年度以来となる財政調整基金取り崩しに頼らない当初予算編成が可能となり、平成22年度末の財政調整基金残高は、11億6,000万円余を確保できる見込みとなりました。

また平成22年度末の一般会計普通債残高は、前年度末と比較して約4億3,900万円減の約5億3,000万円となることが見込まれ、財政健全化へ着実に前進していると言えます。

財政調整基金に頼らない予算編成

勝山さんちの家計簿 例え年収を300万円（月収25万円）とすると……

収入		支出	
平成22年度予算 (一般会計性質別内訳)	1か月の家計に例えると	平成22年度予算 (一般会計性質別内訳)	1か月の家計に例えると
市税などの自主財源 39億4,889万円	給料・パート収入 25万円	繰入金・補助費・出資金・貸付金等 30億9,936万円	子どもへの仕送り・各種会費など 19万6,200円
地方交付税、国・県支出金等 66億4,001万円	両親からの仕送りなど 42万400円	人件費 23億1,319万円	食費 14万6,400円
市債発行 9億4,510万円	各種ローンの借入 5万9,800円	扶助費 19億8,645万円	医療費 12万5,800円
収入計 115億3,400万円	収入計 73万200円	普通建設事業費・維持補修費 15億9,672万円	車の購入・自宅の増改築・修繕費 10万1,100円
		公債費 11億6,501万円	ローン返済 7万3,800円
		物件費 13億4,326万円	光熱水費・被服費等 8万5,000円
		積立金 2,950万円	新たに預ける貯金 1,900円
		支出計 115億3,400万円	支出計 73万200円



平成22年度 予算特集

誇りと活力に満ちた  
ふるさと勝山の実現へ

総額は前年度比2.7%増の 積極型予算

本年度の一般会計当初予算は、115億3,400万円の前年度比3.6%の増（金額にして3億9,800万円の増）、各特別会計と下水道の企業会計を含めた全体の予算規模は約195億7,300万円の前年度比2.7%の増（金額にして約5億1,500万円の増）となりました。

また、中学校修了までの児童を養育している保護者への「子ども手当」の支給がスタートするため、子ども手当給付費として、一般会計に約3億7,700万円を計上しています。

市税の減少を、地方交付税、臨時財政対策債がカバー

景気低迷などにより、市税は、個人市民税、法人市民税、固定資産税の落ち込みを見込み、市税全体では、前年度比5.6%減の約29億9,000万円を計上しました。

一方、地方交付税では前年度比12.1%増の38億1,000万円、臨時財政対策債で前年度比50%増の約5億9,200万円を計上しました。

下水道使用料については、使用料の収入減少が続いており、必要な経費をまかなうことができなくなっていることから、平成22年4月分（5月検針分）から平均12.5%引き上げます。